

## 教室関係

### § 松井教授の退官

松井勇先生は昭和48年4月1日をもって退官された。松井先生は昭和22年4月東京女子高等師範学校講師として着任されて以来、実に26年の長きにわたり研究と教育につとめられるかたわら、地理学科主任・図書館運営委員・学生委員長・教務委員等をつとめられた。退官にあたり、浅井辰郎教授を実行委員長とする松井勇教授退官記念会が組織され、地理学教室の新旧教職員、卒業生の中290人の賛同を得て、記念事業が行われた。松井先生の論文「那須野盆地の小売商圈」（お茶の水女子大学人文科学紀要第26巻第2分冊，1—35頁，1973年3月）の別刷300部，論文の多色刷付図500部，松井先生著作目録400部を刊行し，4月15日には新装成った文教育学部会議室に，卒業生を中心に113名が出席して記念祝賀会を開催し，銀製花瓶その他記念品を贈呈した。なお松井先生は，早稲田大学と自由学園で週4日講義を担当されている。

### § 齊藤講師の着任

松井先生の後任には，4月1日より秋田大学から齊藤功先生が人文地理学講座の講師として着任された。齊藤先生は昭和40年東京教育大学理学部地理学科を卒業後大学院に進まれ，44年5月教育大学助手となられ，更に46年4月から48年3月まで秋田大学教育学部講師を勤められた。専門は農業地理学で，今年度は経済地理学I，地理学演習Iを担当される他，正井先生と共に1年生の補導委員をつとめられている。

### § 教官の学内役職

浅井先生 地理学科主任・施設計画委員，臨海実験所運営委員・人文科学紀要編集委員

浅海先生 4年生補導委員，ラジオアイソトープ実験室運営委員，臨海実験所運営委員，自然科学報告編集委員，学館運営委員

式先生 3年生補導委員，学寮委員長，教育研究施設委員

正井先生 1年生補導委員, 学生委員, 図書選定委員  
内藤先生 2年生補導委員, 電子計算機室運営委員  
斉藤先生 1年生補導委員  
貝山助手 入試委員

## § 教務補佐員・事務補佐員の配置

金子晶子 (昭35卒) 人文地理学講座  
吉田晶子 (修士1年) " 図書整理  
小山須美子(修士2年)(48年10月まで) 人文地理学講座  
玉城恵子 (修士昭48卒) 自然地理学講座  
林 陽生 (法政大修士1年) "  
渡辺勝江 (昭48卒)(48年8月まで) 自然地理学講座  
島田文子 (昭48卒)(48年8月まで) 自然地理学講座  
鈴木陽子 (修士昭43卒) 地誌学講座  
渡辺むつみ(修士2年) 地誌学講座 空中写真整理  
石田真知子(昭47卒)(48年10月まで) 地誌学講座

## § 地理学巡検

浅井先生	9月	富士山麓	1年生
浅海先生	3月	未定	2年生
式先生	10月	御前崎・蒲郡	3年生
正井・斉藤先生	3月	南紀・大阪	3年生
内藤先生	9月	福島盆地	2年生

なお巡検の履修の方法について若干の改正が行われ, 必須の2単位を習得するためには, 12-14日の長期巡検参加が必要となり, 1日巡検を含めて15-17日参加すれば3単位, 18日以上ならば4単位習得できるようになった。

## § 卒業論文

遠藤幸子 四日市市の工業 — 港湾との関連を中心として —  
奥田留美子 都市化に伴う世田谷区の農業の変容

- 黒沢 章子 秦野盆地における土地利用変化の地理学的考察
- 桑原理子 愛知県渥美郡赤羽根町における農業の発展と地域の変貌
- 斉上和佳子 大宮台地東南部の農業地理学的考察 — 植木栽培を中心として —
- 柴田裕美 小糸川流域の地理学的考察
- 鈴木美知子 所沢市域の地理学的考察 — とくに都市化に伴う諸現象について —
- 田中千津子 飯島 — 過疎化に伴う地域構造の変化 —
- 田辺保世 愛知県北設楽郡豊根村の地誌的研究 — 林業を中心として —
- 三浦千代子 山形県上山盆地の地域性 — 農業を中心として —
- 山本倫子 鳥取市周辺の農業地域構造 — 福部村を事例として —
- 米山和子 厚木市の工業化と地域の変貌
- 仲松洋子 沖縄県名護市の農業に関する地理学的研究

## § 大 学 院

48年3月に大和田香代さん、玉城恵子さん、星合克代さんが修士の称号をうけた(要旨前出)。  
48年度の入学生は本学出身の武井淑江さんと吉田晶子さんの2名である。

## § お茶の水地理談話会

地理学教室の主宰するお茶の水地理談話会が6月に発足した。これは地理学教室の教職員・卒業生をもつて構成し、地理学及び地理教育に関する調査研究を紹介・発表して相互の理解を深め、各人の研究・教育の向上に資することを目的とするもので、奇数月の第3土曜日の午後を定例の開催日としている。本年度の世話人は浅井・式・斉藤の諸先生が当られ、すでに次のような3回の会合がもたれた。予期以上に出席者が多く、健全な発展を期待したい。

- |     |        |                               |     |     |
|-----|--------|-------------------------------|-----|-----|
| 第1回 | 7月21日  | 式正英教授：ミュンヘン・ウブサラとその周辺の地理      | 出席者 | 40人 |
| 第2回 | 9月22日  | 栗原尚子氏(一橋大助手・16回生)：メキシコにおける都市化 | 出席者 | 24人 |
| 第3回 | 11月17日 | 浅井辰郎教授：発生論的手法によるアイスランドの地誌     | 出席者 | 26人 |

## § 教官の海外出張

式先生は予定通り3月6日1年間の欧米出張を終えて無事帰国された。浅海先生は短期の文部省

在外研究員として、環太平洋地域の土壌地理研究のため10月3日オーストラリア及びニュージーランドに出張され、11月28日帰国された。正井先生は5月20-25日太平洋学術協会第2回中間会議出席の為、グアム島に、また9月3日より10日まで大学院生を引率して韓国へ出張された。(貝山記)

## 学 会 関 係

日本地理学会1973年度春季大会は都下小金井市にある東京学芸大学を会場にして4月4日～7日の4日間(6,7日は巡検)にわたって開催された。一般発表は119件、巡検は埼玉県東部(日帰り)、栃木県中部(1泊)、富士山麓(1泊)の3班であった。このうち富士山麓巡検は本学の浅井辰郎、浅海重夫、正井泰夫の各先生が案内者に加わって行われた。

日本地理学会秋季大会は11月10日～14日(12,13,14日は巡検)の5日間にわたって広島大学を会場にして開催されたが、人文地理学会、地理科学会との共催で行われたためか、シンポジウムの他一般発表は150件に達し、盛大であった。シンポジウムは、侵食面、アジアにおける「緑の革命」の問題点、土地の区画の3件、巡検は芸南沿岸(日帰り)、中国山地(1泊)、吉備路(1泊)、西四国(2泊)の4班が行われた。本学関係者による一般発表のタイトルは次の通りである。

浅井辰郎：アイスランド酪農業の生態学的計算

正井泰夫：冬の都市気候景観からみた日本都市の地域差

栗原尚子\*：ラテンアメリカの大都市におけるUrban Fringeの形成過程——メキシコシティにおける調査事例報告

この他に式正英先生はシンポジウム「侵食面」の座長をつとめられた。(内藤記)

\* 第16回生